

### 3. 皮膚疣状結核 warty tuberculosis, tuberculosis verrucosa cutis

#### 症状・病理所見

外傷を生じやすい四肢末端や殿部などに好発する（図 26.3）。数個の硬い小結節が融合拡大し、周辺が疣状の紅色局面を形成する。遠心性に拡大し、中心は治癒傾向ないし癬痕を形成する。病理組織学的には非特異的な炎症反応がみられ、Langhans 型巨細胞や膿瘍が真皮上層にみられる。染色しても抗酸菌はみられないことが多い。

#### 病因

結核菌による皮膚感染、すなわち真性皮膚結核の一種である。結核菌に対してすでに免疫がある人の皮膚に、外傷などから新たな結核菌が侵入（接種）して発症したものである。

#### 診断・鑑別診断・治療

ツベルクリン反応強陽性や病理所見による。組織や膿汁からの菌の分離や PCR 法も行われる。尋常性疣贅、クロモブラストミコーシス、尋常性狼瘡、股部白癬などが鑑別診断として重要である。抗結核薬によく反応する。

## b. 結核疹 tuberculid

結核菌に対する免疫反応によって生じると考えられている皮膚疹を結核疹（tuberculid）という。肺など他臓器に結核病巣が存在することが多い。結核菌あるいは結核菌に関連した抗原が血行性に播種することで、皮膚に免疫反応を生じたものと考えられている。結核菌に対する強い細胞性免疫をもつ個人に発症し、ツベルクリン反応は著しく強い反応を示す。結核疹の病変から結核菌は検出されないが、PCR 法で陽性になることがある。抗結核薬によく反応することも結核疹の特徴である。

### 1. 硬結性紅斑 erythema induratum (Bazin) ★

→ 18 章 p.355 参照。

### 2. 丘疹壊疽性結核疹 papulonecrotic tuberculid

結核菌に対するアレルギーによって生じる血管炎と考えられており、結核疹の一種である。青年の四肢伸側、とくに肘頭や



図 26.3 皮膚疣状結核 (warty tuberculosis) 辺縁疣状角化性紅斑性局面。遠心性に拡大する。中心部に治癒傾向を示す。